

呉市立安浦中学校 3年生防災学習

7月16日（木）、本校3年生を対象に「避難所や防災情報」をテーマとした防災学習を実施しました。呉市役所の職員の方や呉市防災リーダーの皆様をお招きし、災害への備えに必要な知識についての講話や、避難所設営の実技指導をしていただきました。

① 呉市・安浦地区が抱える「雨の災害」の地理的リスク

呉市は過去に何度も、集中豪雨や地震、土砂災害といった厳しい災害を経験してきました。講師の方からは、呉市で特に雨の災害が発生しやすい理由として3つの地理的特徴が挙げられました。



1. 面積の54%が山であり、平坦な土地が非常に少ないこと。
2. 市街地が険しい山によって分断されていること。
3. 戦時中に発展した街の歴史から、平地ではなく急傾斜地に住宅が密集していること。

私たちが暮らす安浦地区にもこうした危険な場所が非常に多く、高い地理的リスクを抱えていることを改めて学びました。

② 平成30年7月西日本豪雨の教訓とリアルな体験

続いて、呉市で死者30名、負傷者22名を出した史上最悪の水害「西日本豪雨（平成30年）」について、当時、消防署の指揮調査隊として実際に救助活動を行った講師の生々しい体験談が語られました。



災害発生当時、安浦地区からは非常に早い段階で救助要請が鳴り響いたものの、人員がいても出動できる消防車が足りなくなるほどの未曾有のパニック状態に陥ったといえます。

講話では、大量の土砂で完全に埋まってしまった川や、濁水に浸かった安浦駅北側の様子などの写真も紹介されました。いつ起こるか分からない大災害に対し、「自分たちの身にも明日起こるかもしれない」という強い危機感を持つことの重要性を突きつけられました。

③ ハザードマップで我が家を、地域を知る「事前の備え」

最後に、災害から命を守るための具体的な行動として、「ハザードマップ」による事前の確認が呼びかけられました。安浦中学校の周辺をハザードマップで確認すると、学校の北側には崖崩れのリスクがある急傾斜地が広がっており、さらに洪水や津波、高潮による冠水のリスクも多く存在しています。近年は、「1000年に1回の大雨」という想定はもはやいつ現実になってもおかしくありません。いざ避難するときに危険なルートを通してしまわないよう、「安浦町づくりセンター（第1開設避難所）」などの避難場所や、そこまでの安全な経路を日頃から家族で話し合っておくことが命を救う第一歩になります。

